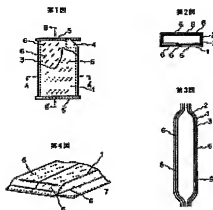


© PatBase

**International class (IPC 8-9):** B65D30/08  
B65D33/01 (Advanced/Invention);  
B65D30/08 B65D33/01 (Core/Invention)  
**International class (IPC 1-7):** B65D30/08  
B65D33/01

[illegible]

2000

<b>Family:</b>	<b>Publication number</b>	<b>Publication date</b>	<b>Application number</b>	<b>Application date</b>
	JP2011313 Y2	19900320	JP19840031736U	19840307
	JP60146042 U1	19850927	JP19840031736U	19840307
<b>Priority:</b>	JP19840031736U 19840307			

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭60-146042

⑬ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)9月27日

B 65 D 33/01  
30/08

7234-3E  
7234-3E

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 多層紙袋

⑯ 実 願 昭59-31736

⑰ 出 願 昭59(1984)3月7日

⑱ 考 案 者 石 川 稯 夫 茨木市玉瀬町6-6

⑲ 出 願 人 千代田紙業株式会社 東京都渋谷区渋谷1の7の8


⑳ 出 願 人 石 川 稯 夫 茨木市玉瀬町6-6

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

多層紙袋

### 2 実用新案登録請求の範囲



袋の一層として合成樹脂管状フィルム或いは合成樹脂フィルムを全周に渉つて層間に介在させた多層袋において、その合成樹脂フィルム面の複数箇所斜向切目線を切刻してなる多層紙袋。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は多層袋、更に詳しくは袋の一層として合成樹脂管状フィルム或いは合成樹脂フィルムを全周に渉つて層間に介在させた多層袋に関するものである。従来、セメント・製粉穀類・飼料等を収納する多層袋は、その収納物が固結することなどを防止する為に袋の一層分として合成樹脂管状フィルム或いは合成樹脂フィルムを全周に渉つて層間に介在させて防湿を期しているが、此等の防湿素材が全壁に介在する為、収納物と同時に袋に吹込まれるエアー抜きが極めて不十分となり収納物の充填時袋をふくらませるパンカーに著るしく

障害を及ぼすこととなる。

本考案は、このような従来品の欠点を解消した多層袋を提供するものである。

即ち本考案は袋の一層分として介在させる合成樹脂管状フィルム面の複数箇所に斜向切目線を切刻してなる多層袋である。



本考案の袋素材は紙・樹脂クロス・紙と樹脂クロスを貼合せた積層紙、熱可塑性樹脂フィルムの縦延伸フィルムを一定幅にスリットし、スリット・ヤーンと横延伸フィルム及び紙を同時にラミネートした積層紙等又層間に介在させる合成樹脂フィルムの素材としては、ポリエチレン・ポリプロピレン等の如き熱可塑性樹脂フィルムで使用目的に応じて選択し、前記袋素材と組合せて多層袋とする。今、図面と共に本考案の一実施例を詳述する。第1図は本考案に係る多層袋の一例を示す一部切欠正面図であつて、紙原紙2層とその中間層に合成樹脂管状フィルムを介在した多層袋である。最外層原紙1と最内層原紙2との中間に合成樹脂管状フィルム3を介在させ、常法に従つて縦胴糊



代を夫々残して段違いに重合し筒状体となし、セメント用袋の如くバルブ口<sup>4</sup>を設け天地ミシン掛け<sup>5</sup>、<sup>5</sup>を施して多層袋<sup>2</sup>とすると、各原紙中間に介在させた合成樹脂管状フィルム面に斜向切目線<sup>6</sup>、<sup>6</sup>、<sup>6</sup>等を適宜の間隔及び長さを以つて切刻したものである。

本案は斯の如くであり、収納物と同時に吹込まれる空気は合成樹脂フィルム面に切刻した斜向切目線が形成されているのでその斜向切目線より上方のミシン縫合縫目孔を通つて袋外に完全に排出される。従来、この種の合成樹脂フィルム面に袋内の空気抜きの為にピンボール、縦切目線、脱気用の間隙等を設けているがいずれも一長一短の欠点があつたが本考案の合成樹脂フィルム面に切刻した多数の斜向切目線<sup>6</sup>、<sup>6</sup>、<sup>6</sup>等は例えば縦切目線を例にとれば合成樹脂フィルムが縦方向に延伸されているのでその縦切目線は袋内圧によつて横方向に完全に開かず空気の抜けが悪いのに比し斜向切目線の場合は合成樹脂フィルムが縦方向に延伸されていても袋内圧によつて斜向切目線の切口

全体が湾曲状に形成されるので空気の抜けが著しく良い。従つて防湿の目的をもつて紙層間に合成樹脂管状フィルムを介在させた多層袋であつてもこの斜向切目線を設けることにより収納物と同時に挿入される空気は充分に抜け去り袋に収納物を収納し平積として貯蔵するも袋形状が太鼓状にふくらむことなく、整然と平積することができ、しかも充填時又は包装直後などにおける荷扱いにおいても破袋することがなく実用上有効な効果を有する多層袋を提供するものである。

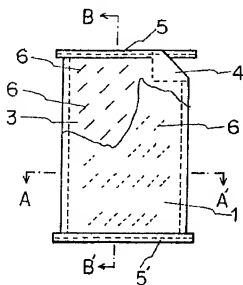
#### 4 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る多層袋の一例を示す一部切欠正面図、第2図は第1図A-A'線における拡大横断平面図、第3図は要部の説明図である。図中各符号は1は最外層原紙、2は最内層原紙、3は合成樹脂管状フィルム、4はバルブ口、5、5'はミシン掛け、6、6、6は斜向切目線、7は多層袋を夫々示すものである。

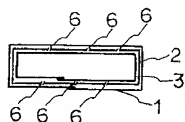
実用新案登録出願人

千代田紙業株式会社（他ノ名）

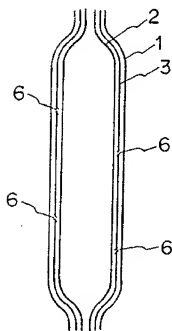
第 1 図



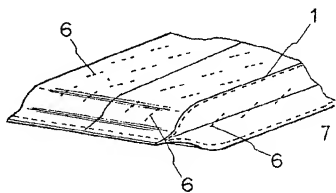
第 2 図



第 3 図



第 4 図



実用新案登録出願入 手代田紙業株式会社

336 (他 1 名)

実開60 年 6 月 1 日

手続補正書（方式）

昭和59年6月27日

特許庁長官 志賀 学 殿

1. 事件の表示

昭和59年実用新案登録願第31736号

2. 考案の名称

多層紙袋

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

居所 東京都渋谷区渋谷1-7-8

名称 千代田紙業株式会社

代表取締役 吉川 八郎



4. 補正命令の日付

昭和59年5月31日（発送日昭和59年6月19日）

5. 補正の対象

明細書の図面の修正





#### △補正の内容

明細書第4頁の4図面の簡単な説明の欄の  
「第3図は要部の説明図である。」とあるの  
を「第3図は第1図B-B'線における拡大  
縦断平面図」と訂正し、その次に「第4図は  
要部の説明図である。」との語句を挿入する。